

Enterprise Analyzer チュートリアル

基本機能の紹介と利用方法 編

1 目的

本チュートリアルでは、Enterprise Analyzer を利用したアプリケーションの解析を行うためにどのような手順でファイル登録を行い、解析を行っていくのか基本的な利用方法を理解することを目的としています。

2 前提

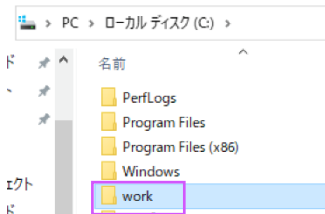
- 2.1 本チュートリアルで使用したマシン OS : Windows Server 2022 Standard Edition
- 2.2 使用マシンに Enterprise Analyzer 11.0 がインストールされていること

3 チュートリアル手順の概要

- 3.1 チュートリアルの準備
- 3.2 ワークスペースの作成
- 3.3 Enterprise Analyzer の起動
- 3.4 設定の変更
- 3.5 アプリケーションの登録
- 3.6 検査の実行
- 3.7 インベントリー・レポートの作成
- 3.8 エグゼクティブ・レポートの作成
- 3.9 移植性評価(ポータビリティアセスメント)レポートの作成
- 3.10 品質評価(クオリティアセスメント)レポートの作成
- 3.11 CRUD レポートの参照
- 3.12 バッチ・アプリケーション・ビューアー
- 3.13 詳細な分析
- 3.14 フィールドの変更分析
- 3.15 最後に

3.1 チュートリアル準備

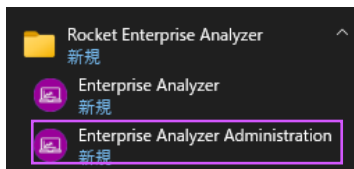
使用する例題プログラムは、Tutorial.zip という名前で[こちらからダウンロード](#)できます。これを C:¥直下に work フォルダーを作成し、そこに解凍します。



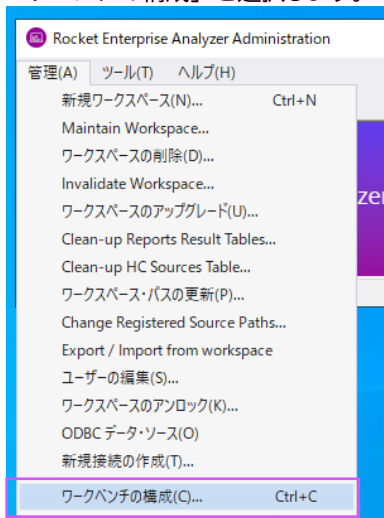
3.2 ワークスペースの作成

アプリケーション解析を行う作業用の領域としてワークスペースを Enterprise Analyzer 起動前に作成します。

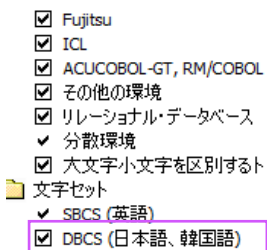
3.2.1 Windows メニューから [Rocket Enterprise Analyzer] > [Enterprise Analyzer Administration] を起動します。



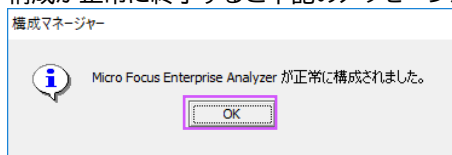
3.2.2 Enterprise Analyzer Administration ウィンドウが表示されますので、[管理] プルダウンメニュー > [ワークベンチの構成] を選択します。



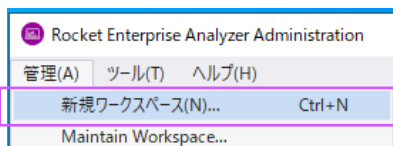
3.2.3 これから解析するアプリケーションの内容に沿った指定であるか確認後、[OK] ボタンをクリックします。日本語文字列入りのソースコードを解析する場合は、[DBCS(日本語、韓国語)]のチェックをオンにします。また、富士通製ソースコードを解析する場合、[レガシー構成]の[Fujitsu]を追加でチェックをオンにしてください。



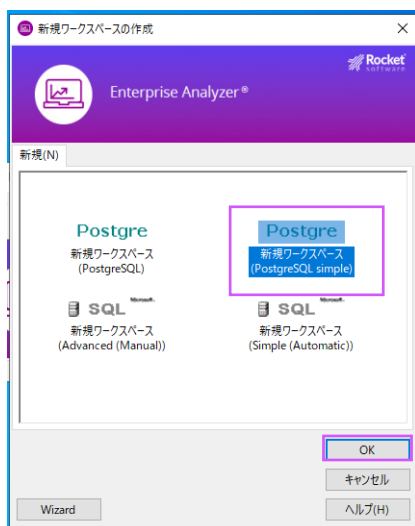
3.2.4 構成が正常に終了すると下記のメッセージが表示されますので [OK] ボタンをクリックします。



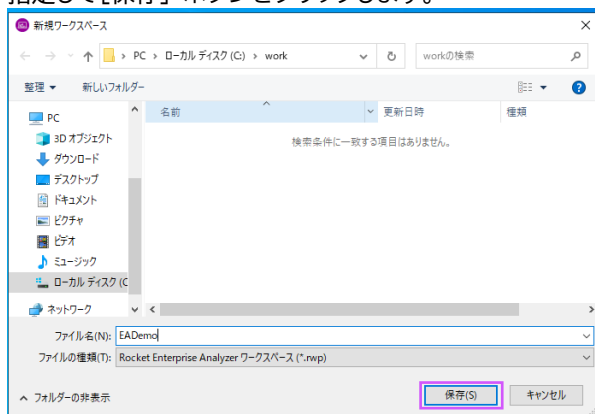
3.2.5 [Rocket Enterprise Analyzer Administration] [管理] メニュー > [新規ワークスペース] を選択します。



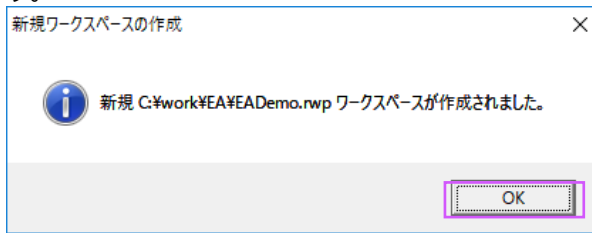
3.2.6 ワークスペースを管理するために使用するデータベースを選択するウィンドウが表示されます。本チュートリアルでは製品に同梱されている PostgreSQL を使用します。[新規ワークスペース PostgreSQL (Simple)] を選択して [OK] ボタンをクリックします。PostgreSQL は、Enterprise Analyzer を同時にインストールされます。製品のインストールは、Enterprise Analyzer インストールガイドをご参照ください。



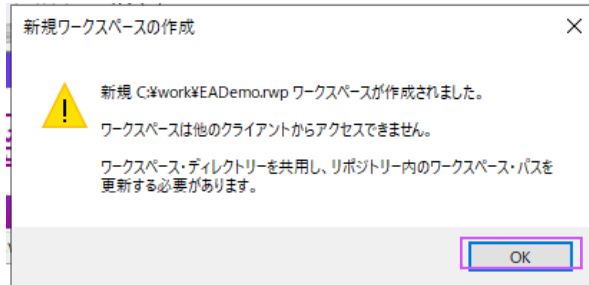
3.2.7 作成するワークスペースの任意のパスを指定して、ファイル名を指定します。本チュートリアルでは、"EADemo" を指定して [保存] ボタンをクリックします。



- 3.2.8 データベースにテーブルが作成されます。作成完了メッセージが表示されますので [OK] ボタンをクリックします。



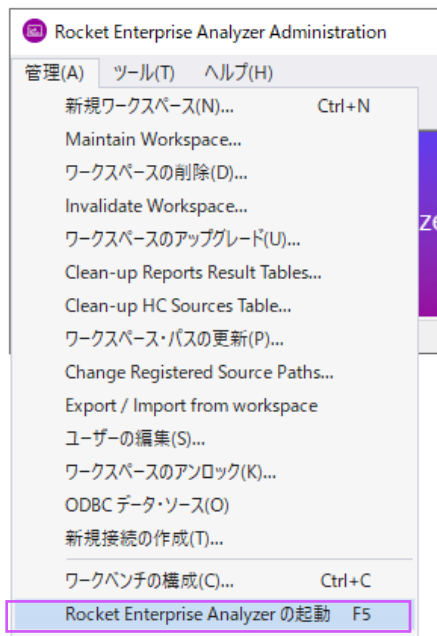
作成パスが共有されていない場合は、下記のメッセージが表示されますので共有設定を行ってください。



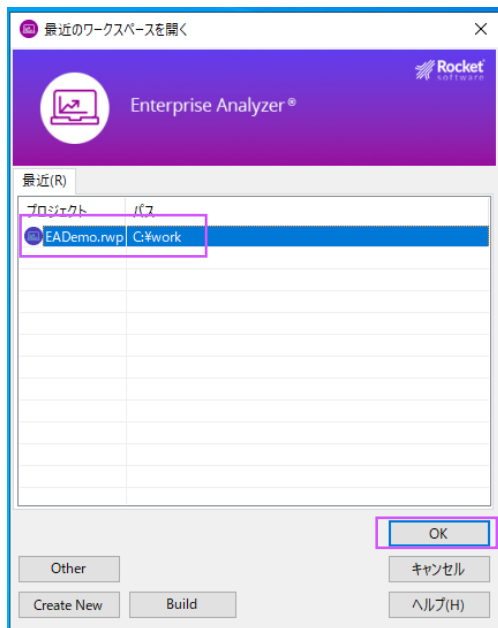
3.3 Enterprise Analyzer の起動

ワークスペースの準備ができたので Enterprise Analyzer を起動します。

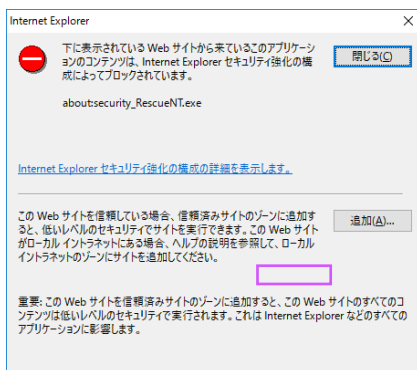
- 3.3.1 前項で起動した [Rocket Enterprise Analyzer Administration] ウィンドウの [管理] メニュー > [Rocket Enterprise Analyzer の起動] を選択します。



- 3.3.2 [最近]タブから作成したワークスペース(拡張子は rwp)を指定して [OK] ボタンをクリックします。

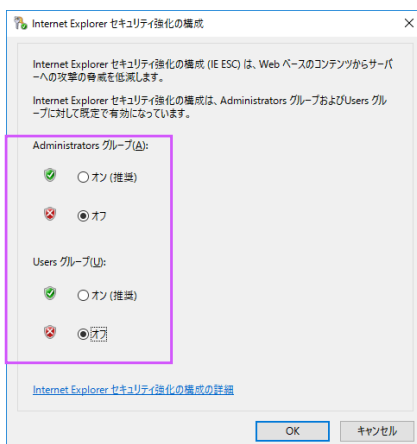


3.3.3 Internet Explorer をお使いで、次のようなウィンドウが表示された場合は、セキュリティレベルを下げるか信頼済みサイトの登録を行ってください。本チュートリアルでは信頼済みサイトへ登録を行いますので「追加」ボタンをクリックします。右側フレーム「ChartView」分の4回繰り返されますので、後続3回は「閉じる」ボタンをクリックしてください。

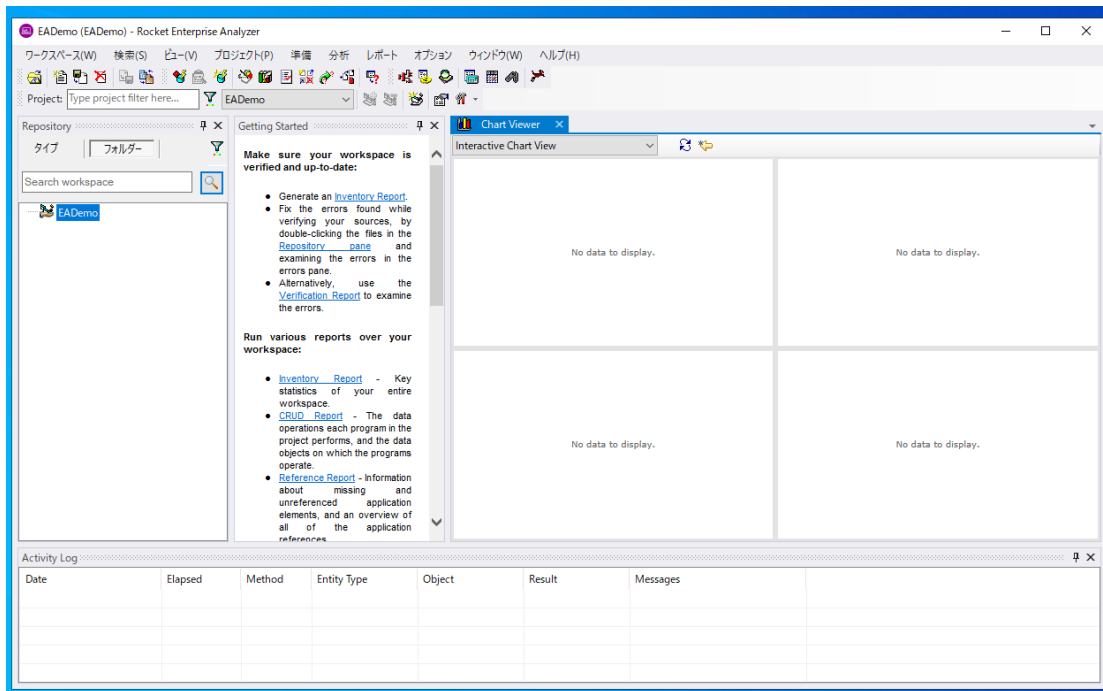


※Windows Server の IE セキュリティ構成を変更することでメッセージを表示させないことも可能です。

[サーバーマネージャ] > [ローカルサーバー] > [IE セキュリティ強化の構成] で必要なグループにオフを設定



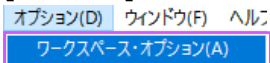
3.3.4 Enterprise Analyzer が表示されます。



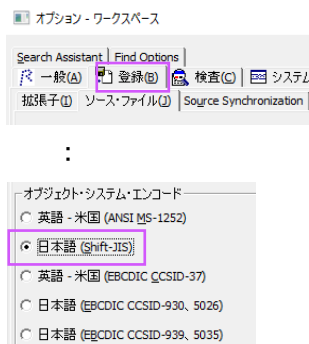
3.4 設定の変更

ファイルを登録する前に日本語環境下で必要な設定変更を行います。

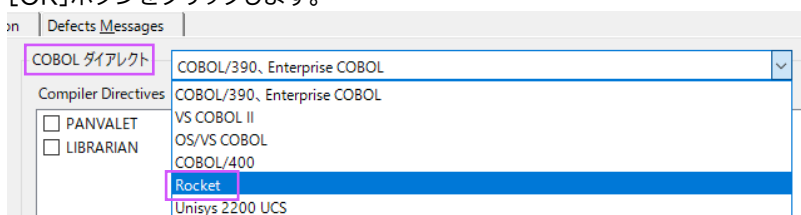
3.4.1 [オプション] プルダウンメニューの [ワークスペース・オプション] を選択して検査時の設定を行います。



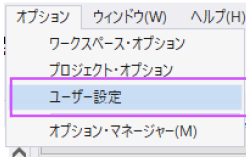
3.4.2 [登録] タブの [ソース・ファイル] > [オブジェクト・システム・エンコード] へ [日本語(Shift-JIS)] を選択し、[Apply] ボタンをクリックします。



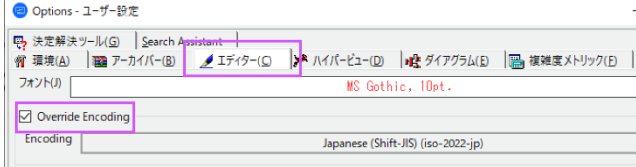
3.4.3 [検査] タブをクリックし、[レガシーダイレクト(Y)] > [COBOL ダイレクト] を “Rocket” に変更して [OK] ボタンをクリックします。



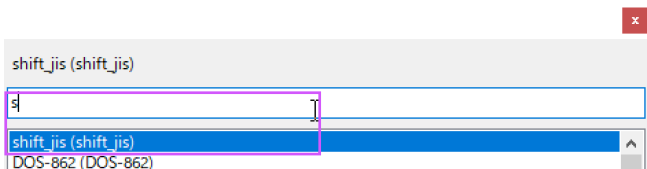
3.4.4 [オプション] プルダウンメニューの [ユーザー設定] を選択します。



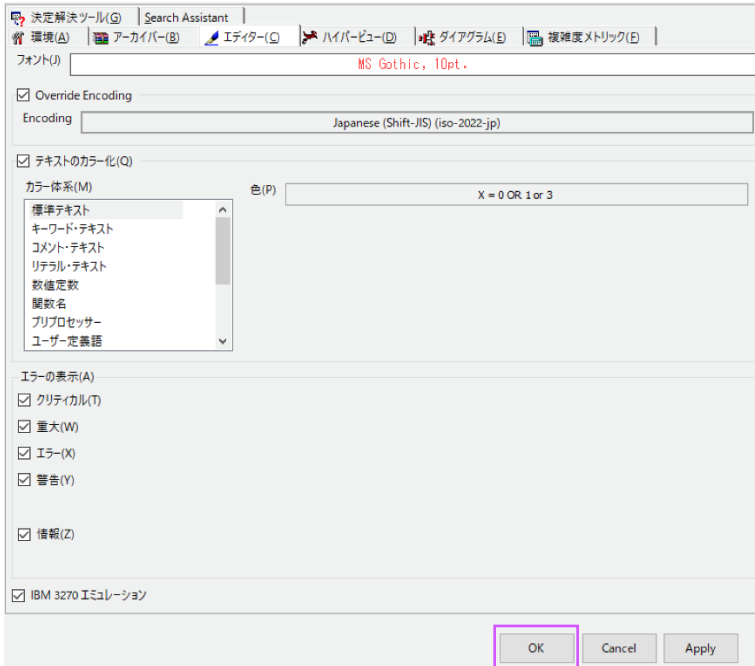
3.4.5 [エディター] タブをクリックし、[Override Encoding] にチェックを入れます。



3.4.6 デフォルトの [UTF-8] から [Shift-JIS] に変更します。[Unicode(UTF-8)(utf-8)] をクリックし、一覧が表示されるので [Search] の文字フィールドに "s" とタイプし、絞り込みされた候補から [(Shift-jis)(shift-jis)] を選択して、[OK] タンをクリックします。



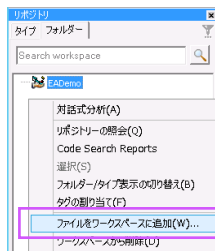
3.4.7 [エディター] タブに戻るので、[OK] ボタンをクリックして設定を反映します。



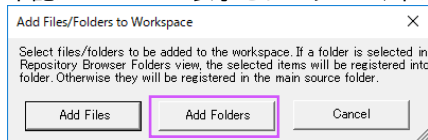
3.5 アプリケーションの登録

表示しているワークスペースに例題アプリケーションを登録します。

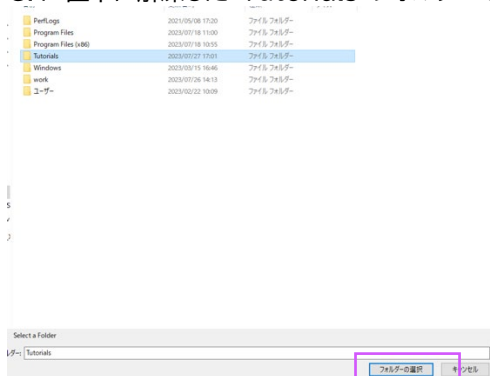
3.5.1 左側にある [リポジトリ] ペイン上で右クリックし、[ファイルをワークスペースに追加] を選択します。



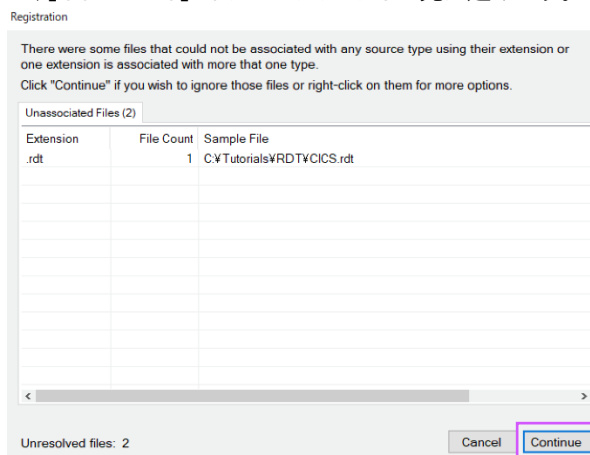
3.5.2 下記メッセージが表示されますので、本チュートリアルでは [Add Folders] ボタンをクリックします。



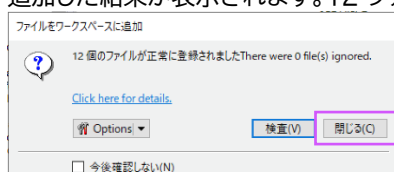
3.5.3 C:\¥ 直下に解凍した Tutorials フォルダを指定して、[フォルダの選択] ボタンをクリックします。



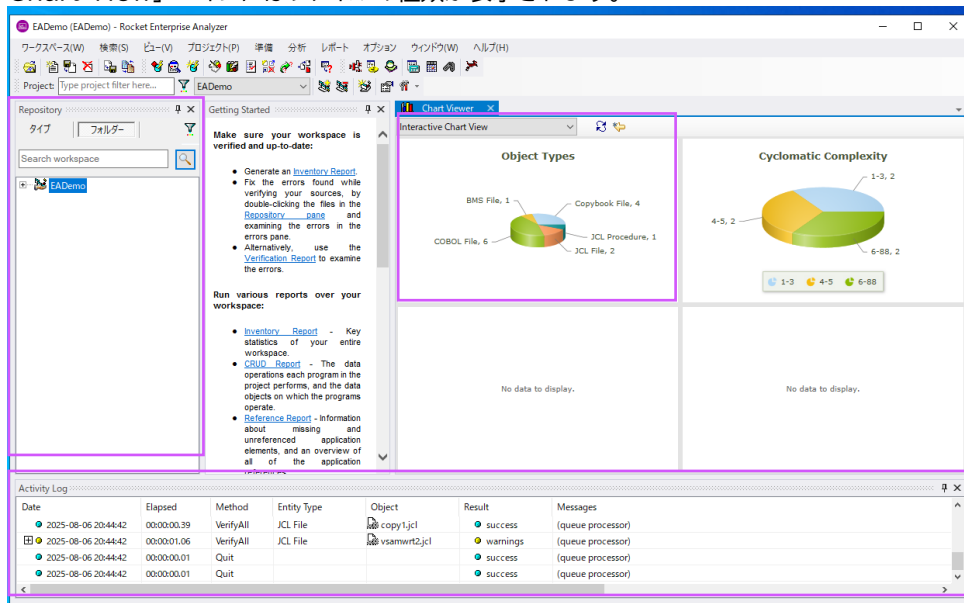
※追加したファイルの中に拡張子と関連するソースタイプが存在しない場合は以下のメッセージが表示されますが、[Continue] ボタンをクリックして先に進みます。



3.5.4 追加した結果が表示されます。12 ファイルが正常に追加されました。[閉じる] ボタンをクリックします。

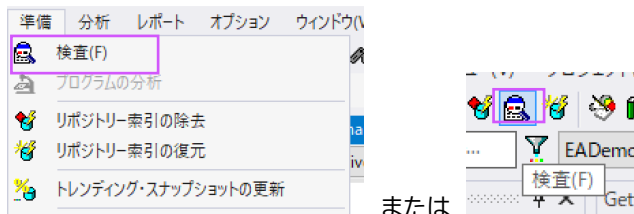


3.5.5 [Activity Log] ペインには追加したログが、[Repository] ペインには追加したファイルが、[Interactive Chart View] ペインにはファイルの種類が表示されます。



3.6 検査の実行

3.6.1 “EADemo” ワークスペースを選択した状態で、[準備] プルダウンメニューの [検査] または [検査] アイコンをクリックして、検査を実行します。ファイルを選択した状態で検査を実行すると、そのファイルのみが検査されます。



3.6.2 検査中は右上に進捗バーが表示され、[Activity Log] ペインにはログが表示されます。

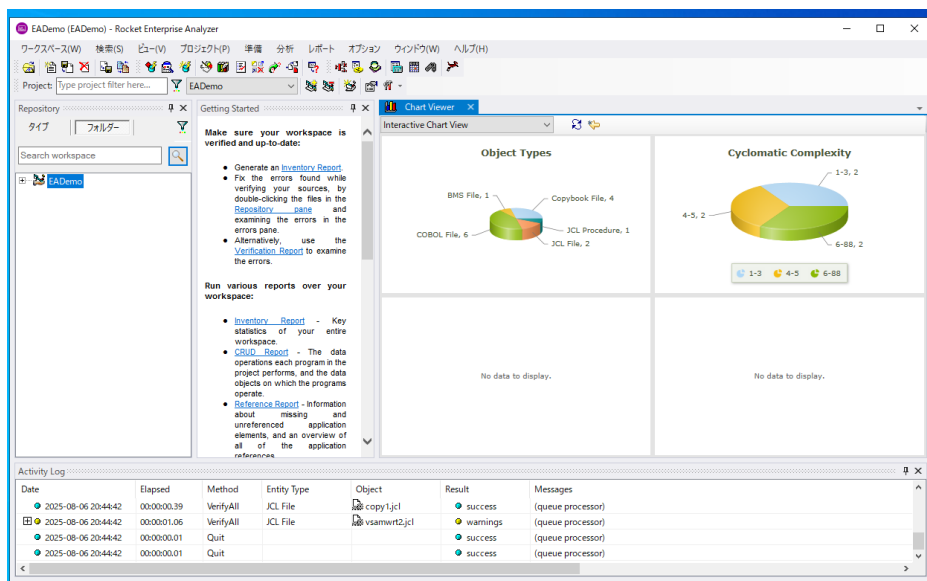


3.6.3 検査が終了後、結果を確認します。

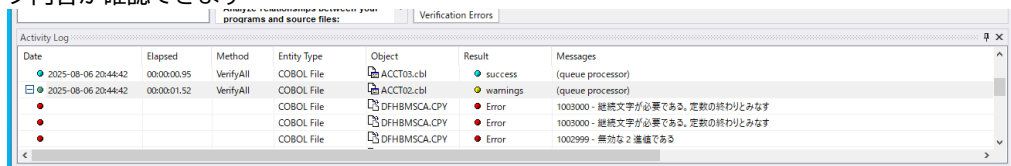
① [Repository] ペインの各ファイル右に表示されているステータスは下記の通りです。

- 青 = パーサーによる検査にファイルが合格したことを意味します。
- 黄色 = パーサーによってファイルのエラーが検出されましたが、デフォルトの寛容構文解析オプションによって解析が緩和されたため、ファイルが検査に合格したことを意味します。
- 赤 = パーサーによってファイルのエラーが検出されたことを意味します。

注: ファイル編集を行った場合は依存ファイルもすべて無効化されるため、再検査が必要になります。



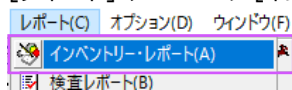
② [Activity Log] ペインの黄色ステータスのファイルをダブルクリックすると対象ソースが表示され、ワーニング内容が確認できます



3.7 インベントリ・レポートの参照

インベントリ・レポートは、サイズ(バイト単位)、コード行の数、検査済みかどうかなど、現在のワークスペースの各ソースファイルタイプに関する統計情報の概要を提供します。

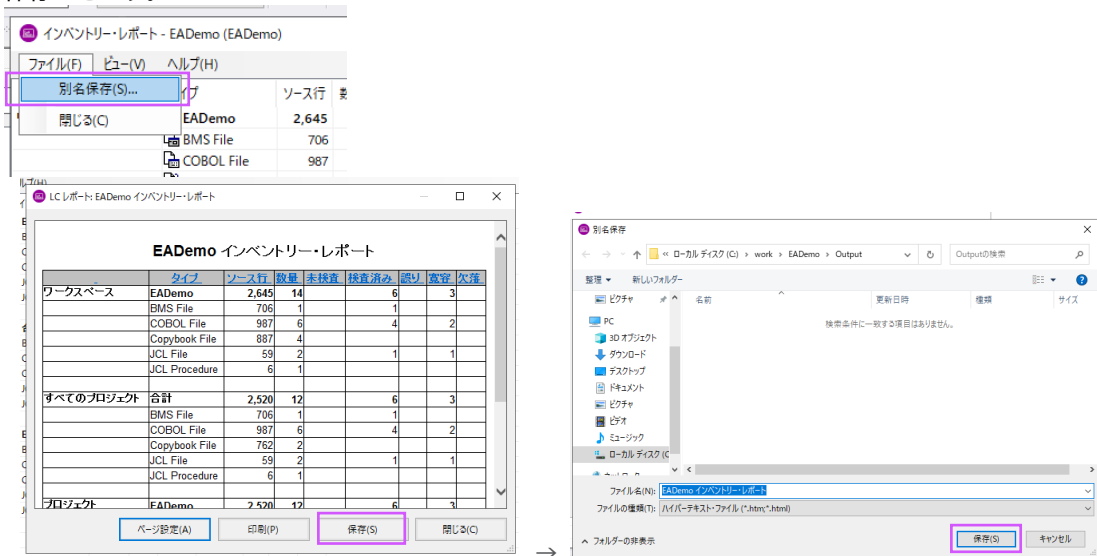
3.7.1 [レポート] メニューの [インベントリ・レポート] を選択します。



3.7.2 レポート結果が表示されます。

インベントリ・レポート - EADemo (EADemo)		ファイル(F)	ビュー(V)	ヘルプ(H)							
	タイプ	ソース行	数量	未検査	検査済み	誤り	寛容	欠落			
ワークスペース	EADemo		2,645	14		6	3				
	BMS File		706	1		1					
	COBOL File		987	6		4	2				
	Copybook File		887	4							
	JCL File		59	2		1	1				
	JCL Procedure		6	1							
すべてのプロジェクト	合計		2,520	12		6	3				
	BMS File		706	1		1					
	COBOL File		987	6		4	2				
	Copybook File		762	2							
	JCL File		59	2		1	1				
	JCL Procedure		6	1							
プロジェクト	EADemo		2,520	12		6	3				
	BMS File		706	1		1					
	COBOL File		987	6		4	2				
	Copybook File		762	2							
	JCL File		59	2		1	1				
	JCL Procedure		6	1							

- 3.7.3 結果をファイルとして出力するには【ファイル】プルダウンメニューの【別名保存】を選択して【保存】ボタンをクリックし、保存先パスと名前を指定します。ファイルの種類を指定することで HTML やテキストファイル形式で保存できます。



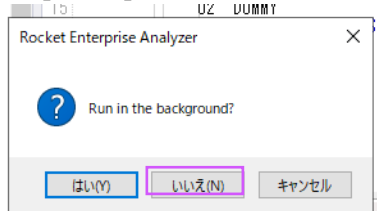
3.8 エグゼクティブ・レポートの作成

エグゼクティブ・レポートは、管理者がアプリケーションのサポートに関するリスクとコストを評価するために使用できるアプリケーションインベントリの HTML ビューを提供します。

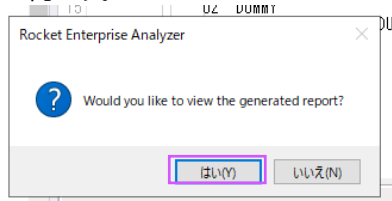
- 3.8.1 【レポート】メニューの【エグゼクティブ・レポート】を選択します。



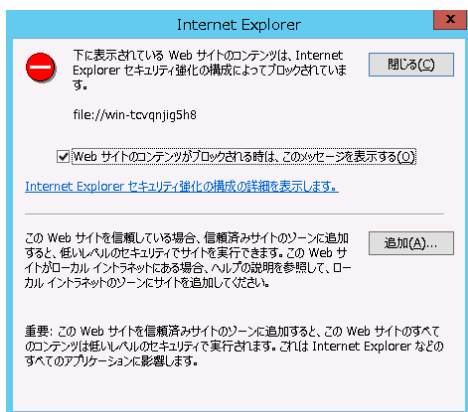
- 3.8.2 リソースによって多少時間がかかる場合があるため、バックグラウンドでの処理を選択することも可能です。ここでは【いいえ】ボタンをクリックしてそのまま実行し、しばらく待ちます。



- 3.8.3 完了すると下記ウィンドウが表示されますので、生成されたレポートを表示する場合は、[はい] ボタンをクリックします。バックグラウンドで処理した場合は Windows エクスプローラを使用し、出力された HTML ファイルをダブルクリックして表示します。この際のデフォルト出力先はワークスペースフォルダー配下の [Output] フォルダ一内です。

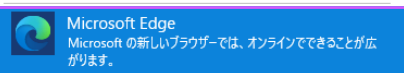


- 3.8.4 デフォルトのブラウザとして IE が指定されている場合、セキュリティ設定によっては下記ウィンドウが表示されます。その場合、信用済みサイトへ追加します。通常は Microsoft Edge をデフォルトのブラウザに指定しておくことをおすすめします。

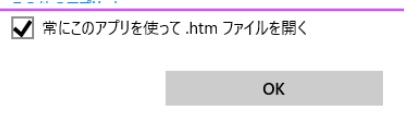
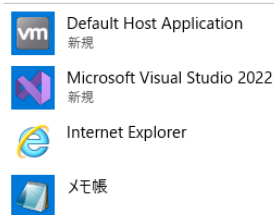


このファイルを開く方法を選んでください。

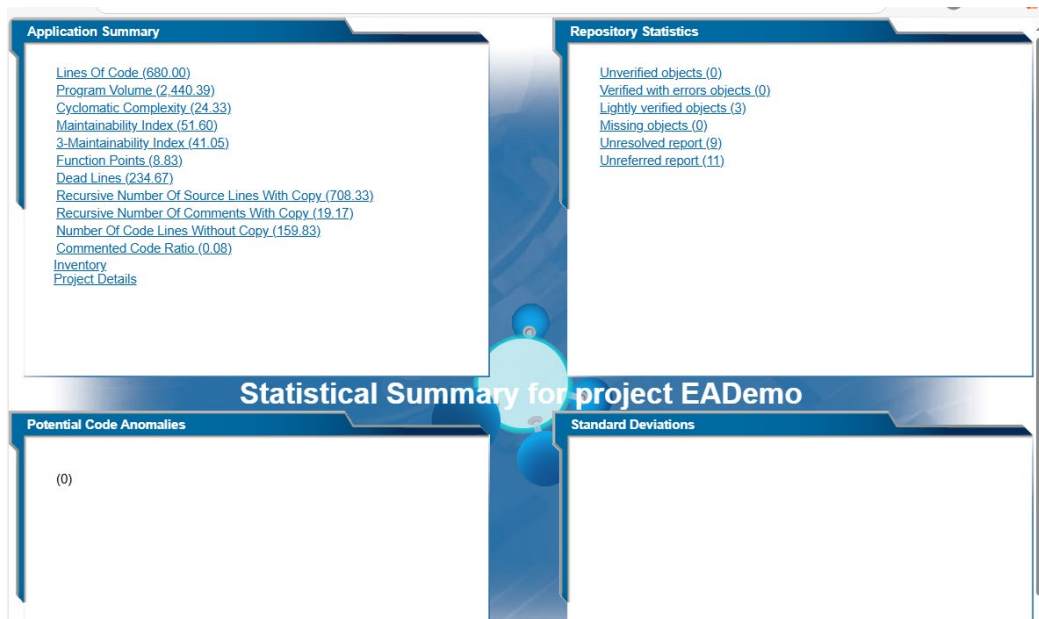
このアプリを今後も使う



その他のオプション



- 3.8.5 エグゼクティブ・レポート一覧が表示されます。



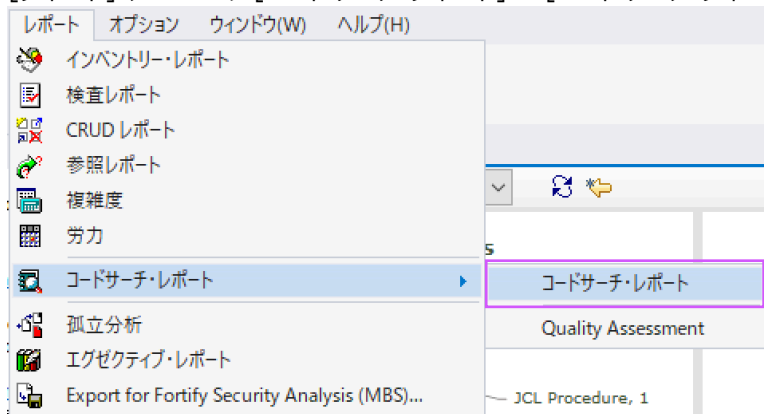
各レポートが 4 カテゴリーに分類して表示されます。

- Application Summary(アプリケーション要約)ビューには、プログラム・ボリューム、保守性、サイクロマティック複雑度、欠陥の数などの業界標準のメトリックによる統計情報が表示されます。
- Potential Code Anomalies(潜在的コード例外)ビューには、プログラムをリエンジニアリング候補としてマーキングする可能性がある潜在的な例外(行き先のない GOTO、範囲の重複など)の統計情報が表示されます。
- Repository Statistics(リポジトリ統計)ビューには、Enterprise Analyzer の検証結果と未解決または未参照のアプリケーション要素に関する統計情報が表示されます。
- Standard Deviations(標準偏差)ビューには、6 つの主要な業界標準のメトリックから見たアプリケーション内のプログラムの偏差がプロットされたグラフが表示されます。

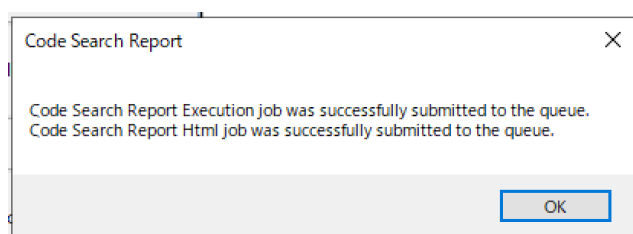
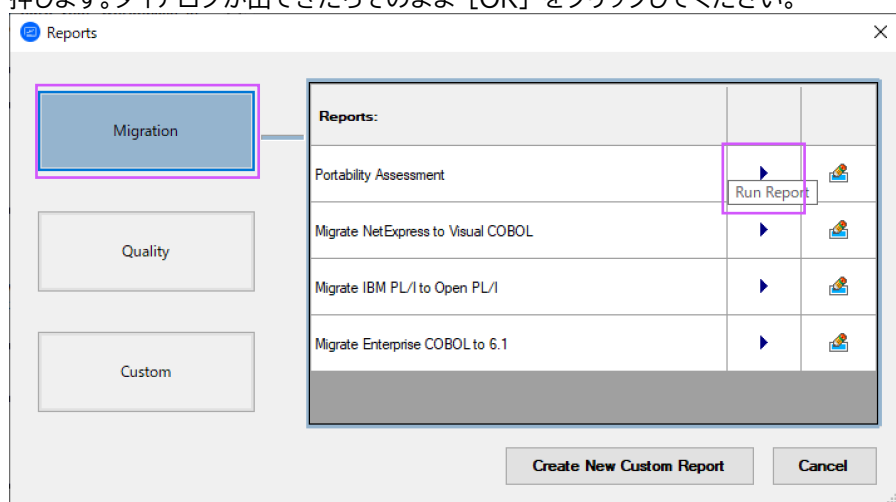
3.9 移植性評価(ポータビリティアセスメント)レポートの作成

移植性評価(ポータビリティアセスメント)レポートは、メインフレームから他の環境にマイグレーションする際の移行性に特化した棚卸し情報を HTML 形式で提供します。

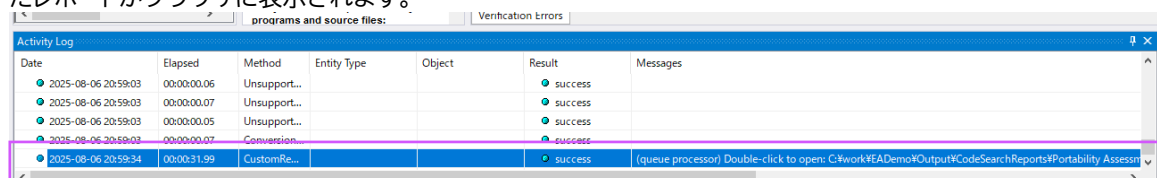
3.9.1 [レポート] メニューの [コードサーチ・レポート] > [コードサーチ・レポート] を選択します



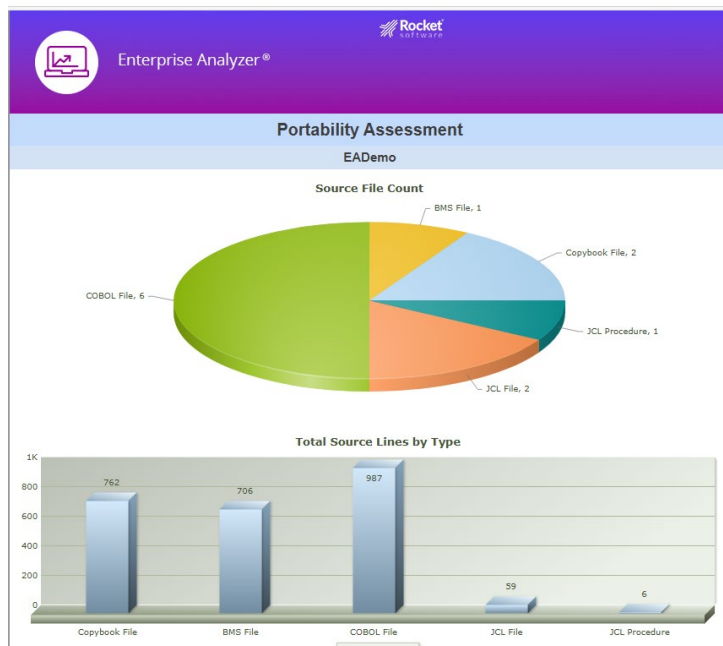
- 3.9.2 移行目的なので [Migration] を選択し、[Portability Assessment] 横にある [Run Report] ボタンを押します。ダイアログが出てきたらそのまま [OK] をクリックしてください。



- 3.9.3 解析処理が完了すると [Activity Log] にその旨のメッセージが表示されるのでダブルクリックすると生成されたレポートがブラウザに表示されます。



- 3.9.4 移植性評価レポートが表示されます。

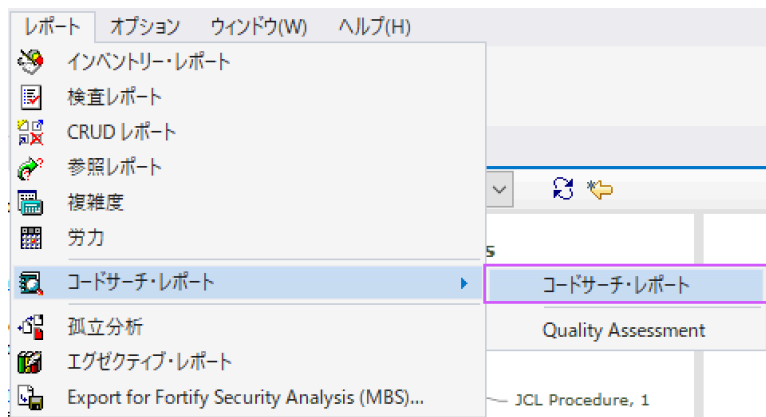


3.9.5 レポートされる項目は、インベントリー分析、データ分析、アセスメント、Scan64 のカテゴリーがあります。それぞれ項目をクリックすると別のレポートに遷移します。

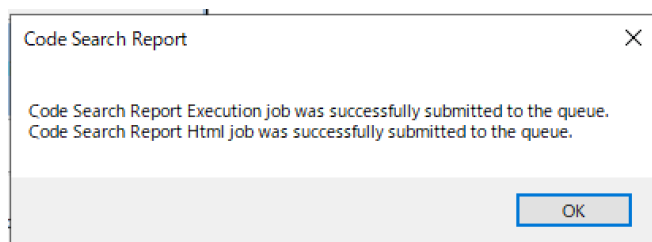
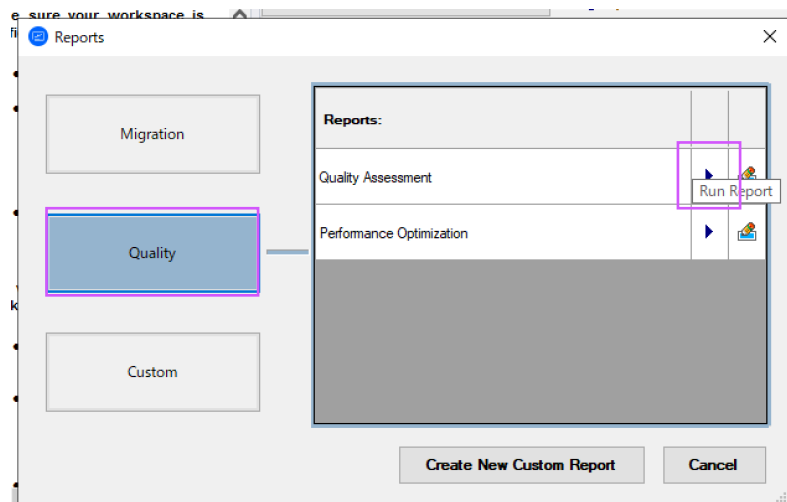
3.10 品質評価(クオリティアセスメント)レポートの作成

品質評価(クオリティアセスメント)レポートは、ソースコードの品質に影響するかどうか Enterprise Analyzer に内包されているルールに基づいてチェックを行い HTML 形式で提供します。

3.10.1 [レポート] メニューの [コードサーチ・レポート] > [コードサーチ・レポート] を選択します。



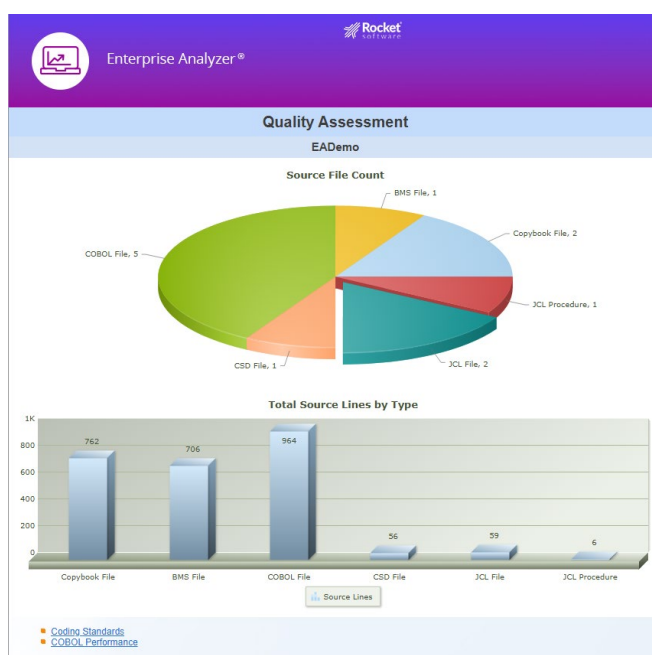
3.10.2 品質に関する作業なので [Quality] を選択し、[Quality Assessment] 横にある [Run Report] ボタンを押します。ダイアログが出てきたらそのまま [OK] をクリックしてください。



3.10.3 解析処理が完了すると【Activity Log】にその旨のメッセージが表示されるのでダブルクリックすると生成されたレポートがブラウザに表示されます。

Activity Log						
Date	Elapsed	Method	Entity Type	Object	Result	Messages
2022-06-30 11:01:29	00:00:00.21	PROGRAM...			success	
2022-06-30 11:01:29	00:00:00.30	CALL state...			success	
2022-06-30 11:01:29	00:00:10.73	CustomRe...			success	(queue processor) Double-click to open: C:\work\EADemo\Output\CodeSearchReport

3.10.4 品質評価レポートが表示されます。



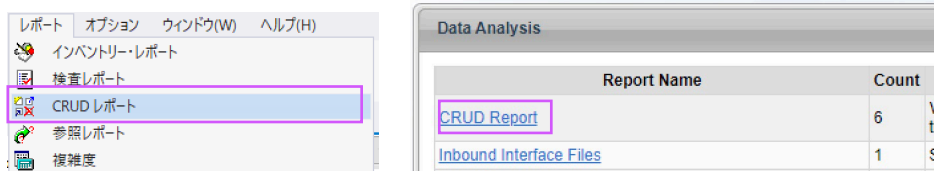
3.10.5 レポートされる項目は、コーディング標準、COBOL パフォーマンスのカテゴリーがあります。例えばコーディング標準である [Coding Standard] をクリックすると詳しい指摘内容を参照することができます。

Coding Standards		
Report Name	Count	Description
PROGRAM-ID	5	This query finds all the programs. The results can be compared against the files in which each program is found.
SPECIAL-NAMES 段落の使用	5	
スイッチがない	13	検索条件を追加して、宣言の属性 (USAGE 句、バイト数等) や PROCEDURE DIVISION 内でどのように使用・参照されるかを含めることができます。
4 の倍数で割ってないレベル番号	2783	違反の検出。この照会では、4 の倍数の桁で始まらないフィールド宣言を検索します。
88 レベル項目以外での条件チェック	184	違反の検出。この照会では、PROCEDURE DIVISION 内で、VALUE 句を持つ定数またはレベル番号 88 以外のデータ項目の使用を検索します。また、EVALUATE 文の対象となる変数は除外されます。
VALUE 句に表意定数を使われていない	28	違反の検出。この照会では、表意定数 ZERO、ZEROS、ZERONES、SPACE、または SPACES の代わりに 0 または '' の VALUE 句を使用するフィールド宣言を検索します。
グループ項目の REDEFINES 指定	29	違反の検出。この照会では、再定義されたグループレベルのフィールド宣言を検索します。
符号の欠落する MOVE ステートメント	2	違反の検出。この照会では、SIGN の欠落を伴う MOVE ステートメントを検索します。
GO TO が EXIT ステートメントのあるパラグラフに分類していない	81	違反の検出。この照会では、EXIT ステートメントを含まないパラグラフに分類する GO TO ステートメントを検索します。
GOBACK ステートメントが最初の段落にない	19	違反の検出。この照会では、プログラムの最初のパラグラフを調べ、STOP ステートメントが含まれているかを確認します。最初のパラグラフは、実行されず、GOTO のターゲットでもなく、さらに前のパラグラフからドロップスルーを介して制御を受けることはありません。除外されたら、STOP ステートメントが含まれているかどうかを確認します。デッド / パラグラフも行く先がなく、「stop」するので、これらも除外されます。
		違反の検出。この照会では、END-IF または END-

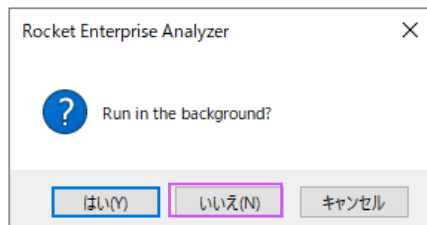
3.11 CRUD レポートの参照

CRUD レポートは、プロジェクトの各プログラムが実行するデータ処理、およびプログラムの処理対象のデータ・オブジェクトを示します。

3.11.1 [レポート] プルダウンメニューの [CRUD] を選択します。もしくは先ほどの移植性レポート (Portability Assessment) のデータ分析 (Data Analysis) 欄にもクリックできるリンクがあります。



3.11.2 バックグラウンドでの処理を選択することも可能ですが、ここでは [いいえ] ボタンをクリックしてそのまま実行し、しばらく待ちます。



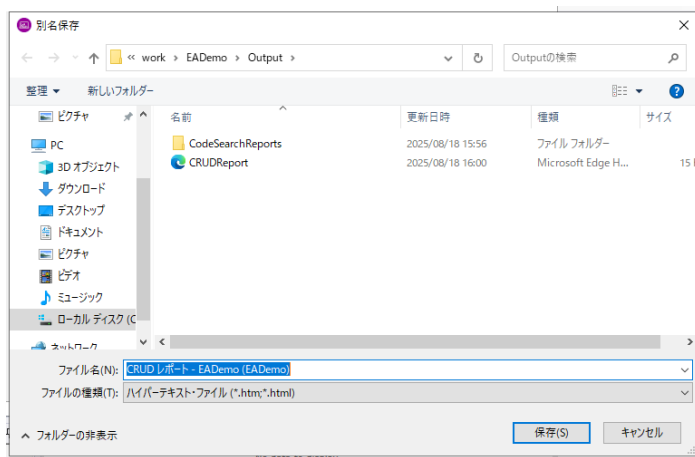
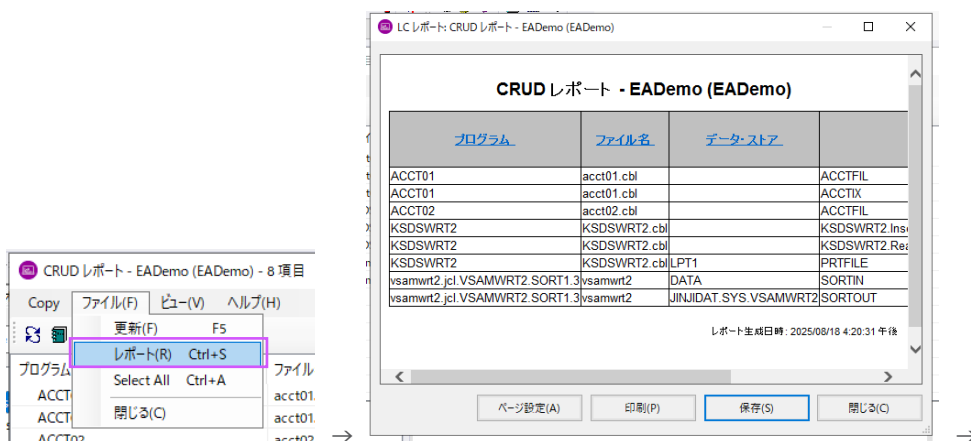
3.11.3 下記のレポートから [ACCTFIL] ファイルが、どのアプリケーションで何をしているのかが把握できます。

CRUD レポート - EADemo (EADemo) - 8 項目

Copy ファイル(F) ビュー(V) ヘルプ(H)

プログラム	ファイル名	データ・ストア	データ	タ...	作成	読み取り	更新	削除
ACCT01	acct01.cbl		ACCTFIL	File		+		
ACCT01	acct01.cbl		ACCTIX	File		+		
ACCT02	acct02.cbl		ACCTFIL	File	+	+	+	+
KSDSWRT2	KSDSWRT2.cbl		KSDSWRT2.InsertsDataPort.KSDSFILE?	File	+			
KSDSWRT2	KSDSWRT2.cbl		KSDSWRT2.ReadsDataPort.INDD?	File		+		
KSDSWRT2	KSDSWRT2.cbl	LPT1	PRTFILE	File	+			
vsamwrt2.jcl.VSAMWRT2.SORT1.3	vsamwrt2	DATA	SORTIN	File		+		
vsamwrt2.jcl.VSAMWRT2.SORT1.3	vsamwrt2	JINJIDAT.SYS.VSAMWRT2	SORTOUT	File	+			

3.11.4 レポートをファイルへ出力するには【ファイル】プルダウンメニューから【レポート】を選択して表示されたフォームから【保存】をクリックしてファイルに保存します。



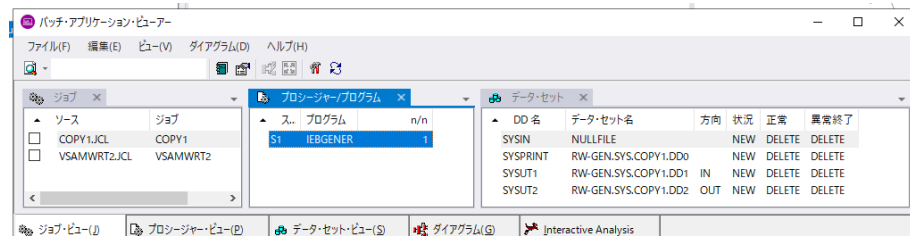
3.12 バッチ・アプリケーション・ビューアー

JCL ステップで何を実行してデータセットは何を使用しているのか、またそのデータセットは新規作成しているのかなどを一覧で表示できます。

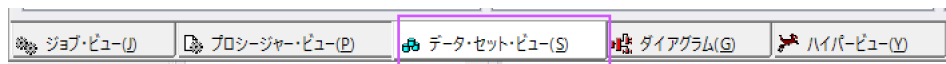
3.12.1 【分析】プルダウンメニューから【バッチ・アプリケーション】を選択します。



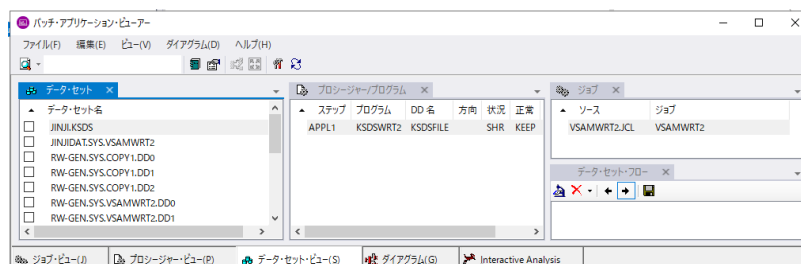
3.12.2 ジョブを選択すると、その中で実行されているステップが、ステップを選択すると、その中で使用されているデータセットが表示されます。



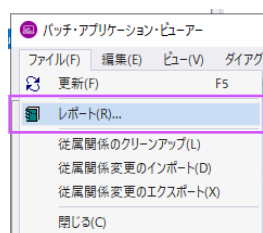
3.12.3 ビューアーウィンドウの下部には何を起点として表示するかを選択可能です。[データ・セット・ビュー] をクリックします。



3.12.4 データセットを起点としたビューが表示されます。データセットを選択するとステップとジョブが変動します。



3.12.5 表示された一覧はレポートとして出力できます。[ファイル] プロダクションメニューから [レポート] を選択します。



ファイルとして保存も可能です。

LCレポート: データ・セット・レポート

データ・セット・レポート

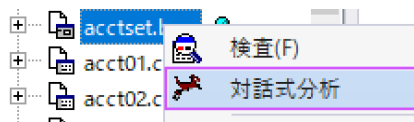
DS 名	ジョブ	ステップ/プロシージャ	N/N	プログラム	DDName	方向	状況
JINJI.KSDS	VSAMWRT2.JCL	APPL1	4	KSDSWRT2	KSDSFILE		SHR
JINJIDAT.SYS.VSAMWRT2	VSAMWRT2.JCL	SORTSTEP/SORTD.SORT1	3	SORT	SORTOUT	OUT	NEW
JINJIDAT.SYS.VSAMWRT2	VSAMWRT2.JCL	APPL1	4	KSDSWRT2	INDD		OLD
NULLFILE	COPY1.JCL	S1	1	IEBGENER	SYSIN		NEW
RW-GEN.SYS.COPY1.DD0	COPY1.JCL	S1	1	IEBGENER	SYSPRINT		NEW
RW-GEN.SYS.COPY1.DD1	COPY1.JCL	S1	1	IEBGENER	SYSUT1		NEW
RW-GEN.SYS.COPY1.DD2	COPY1.JCL	S1	1	IEBGENER	SYSUT2		NEW
RW-GEN.SYS.VSAMWRT2.DD0	VSAMWRT2.JCL	DEFVSAM1	1	IDCAMS	SYSPRINT		NEW
RW-GEN.SYS.VSAMWRT2.DD1	VSAMWRT2.JCL	DEFVSAM1	1	IDCAMS	SYSIN		NEW
RW-GEN.SYS.VSAMWRT2.DD2	VSAMWRT2.JCL	SORTSTEP/SORTD.SORT1	3	SORT	SORTIN	IN	NEW

ページ設定(A) 印刷(P) 保存(S) 閉じる(C)

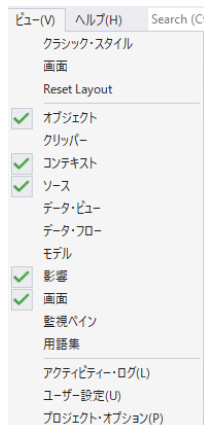
3.13 詳細な分析

前項まではワークスペースを作成して各種の大域的なレポートを生成できることを見てきましたが、次に、プログラミングレベルの支援に関するものとして、画面上のフィールドから出発し、そのフィールドのデータがどのデータと関連しているのかを追跡してみます。

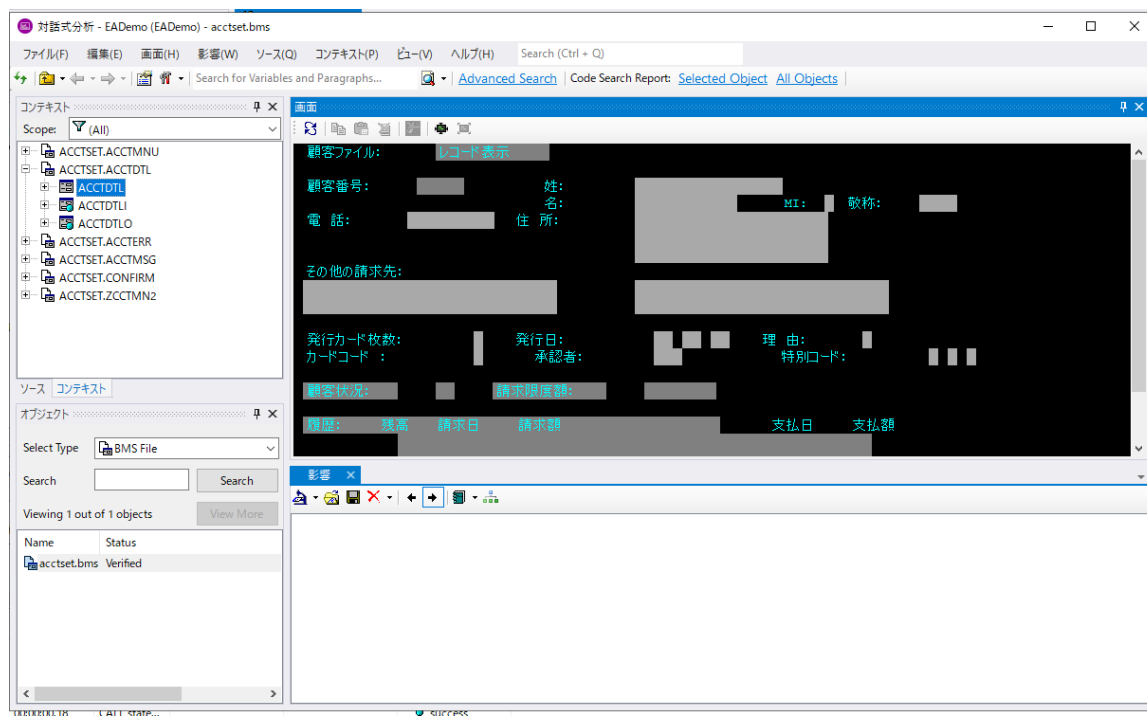
- 3.13.1 CICS の画面定義から追跡します。[レポジトリ] ペイン内で acctset.bms を右クリックし、[対話式分析] を選択します。



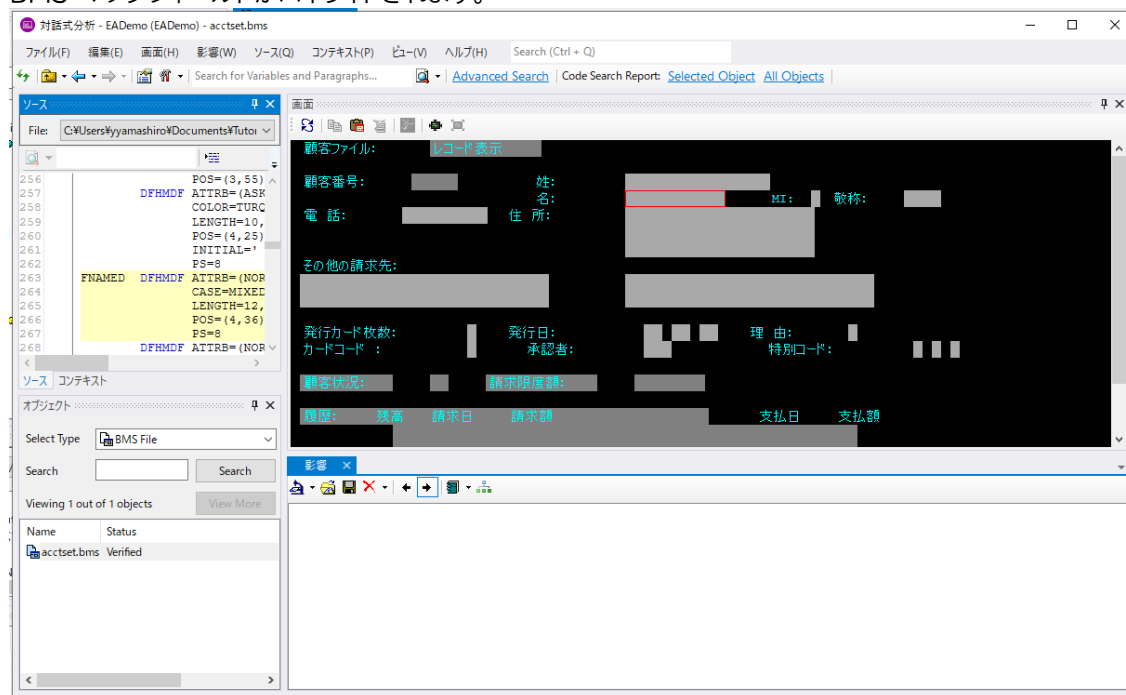
- 3.13.2 [対話式分析] ウィンドウが表示されたら [ビュー] プルダウンメニューの [オブジェクト]、[コンテキスト]、[ソース]、[影響]、[画面] のチェックをオンにします。これにより表示されるペインが変わります。ペインのタイトルバー部分をマウスでドラッグすることによって表示位置を適宜移動させることができます。



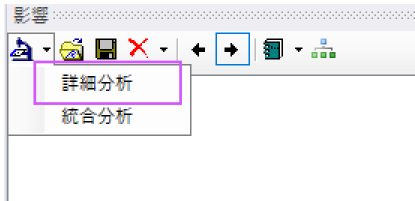
- 3.13.3 [コンテキスト] ペイン内でマップセット ACCTSET 内に定義されたマップの 1 つである ACCTSET.ACCTDTL をクリックすると、[ソース] ペイン内では該当するマップのソース部分がハイライトされ、[画面] ペイン内では該当するマップの画面イメージが描画されます



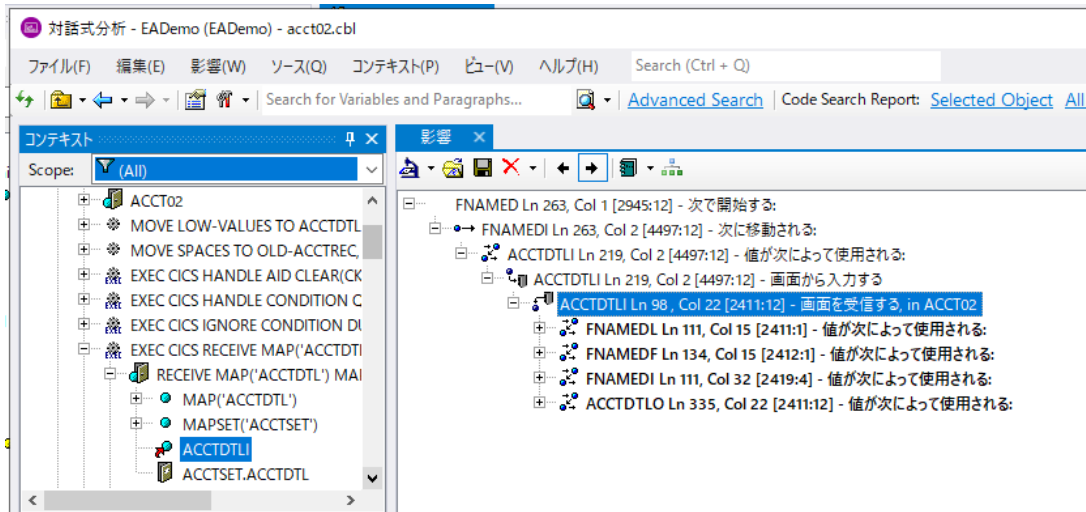
3.13.4 画面上の姓名の「名」表示するフィールドの調査を行います。「画面」ペイン内で「名」を表示するフィールドをクリックすると、「コンテキスト」ペイン上や「ソース」ペイン上で、このフィールドに対応する「FNAMED」というBMS マップフィールドがハイライトされます。



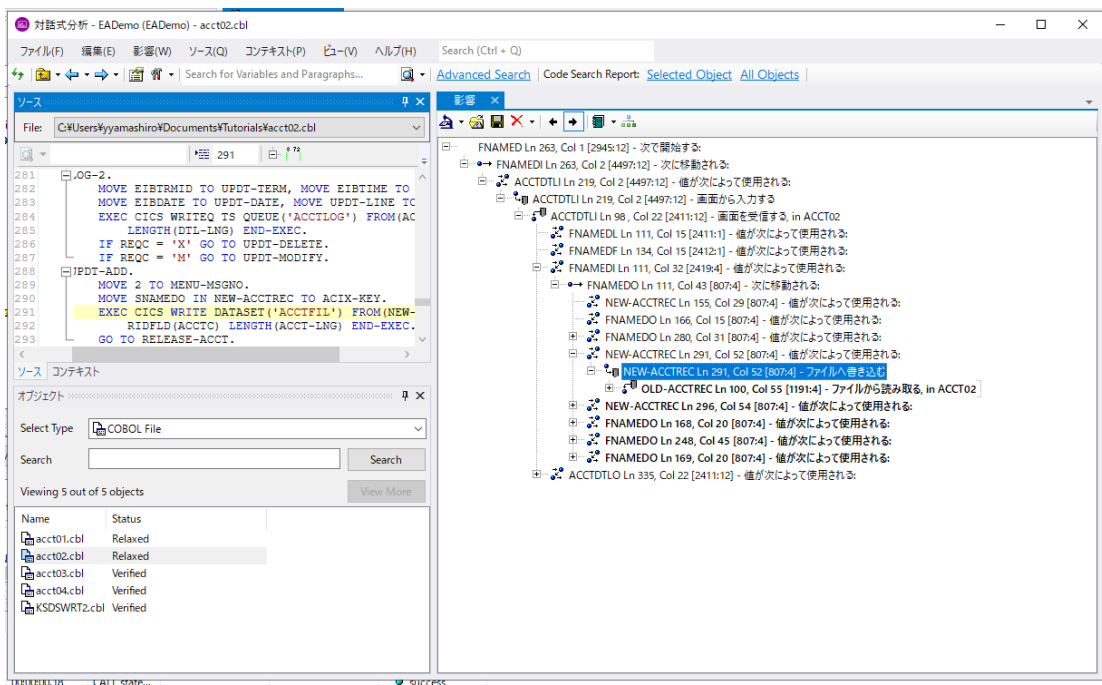
3.13.5 “FNAMED” フィールドが選択されている状態で、「影響」ペインのボタンバー左端のプルダウンで「詳細分析」を選択します。



3.13.6 現在選択されている“FNAMED”フィールドが「影響」ペインの先頭に現れます。ツリービューを展開すると、影響が波及してゆく経路が表示されます。以下のように 4 段目に CICS RECEIVE MAP 文でこの画面項目が入力されている個所が現れます。この行をクリックすると「ソース」ペイン、[コンテキスト] ペインも動的に該当箇所を表示します。



3.13.7 さらにツリーを展開して行くと、このフィールドは以下のように CICS データセット ACCTFIL にストアされることわかります。



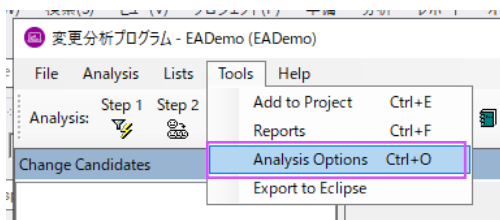
3.14 フィールドの変更分析

プログラムメンテナンスにおいて、特定のフィールド名を使っている項目の長さを一律に変更しないといけなくなる状況は往々にして発生するものです。その時に使用する機能「フィールド変更」機能です。

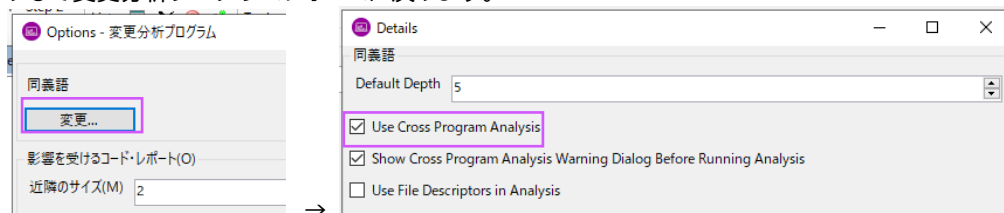
3.14.1 分析メニューより、「フィールド変更」を選択すると変更分析プログラムのフォームが表示されます。



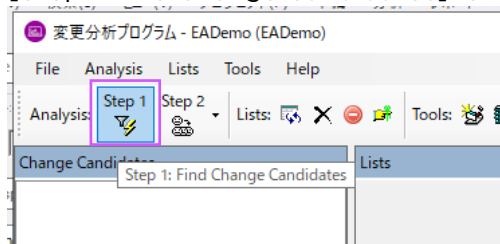
3.14.2 「変更分析プログラム」のフォームにて、「Tools」メニュー > 「Analysis Options」と遷移します。「Options」フォームが表示されます。

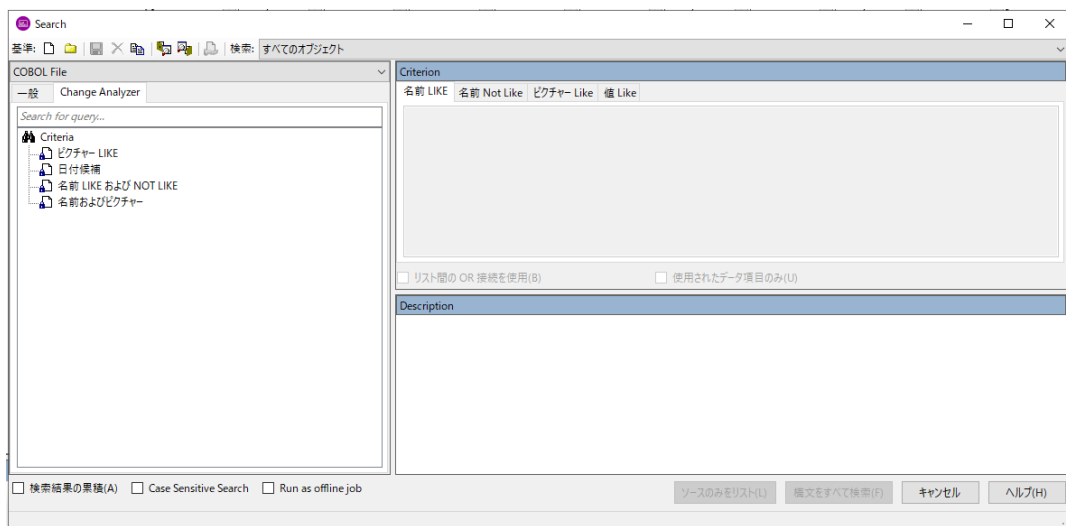


3.14.3 同義語の項目で「変更」ボタンを押し、表示された Details フォームの「Use Cross Program Analysis」のチェックボタンを有効にして「OK」ボタンをクリックします。次のフォームも「OK」ボタンをクリックして変更分析プログラムフォームに戻ります。

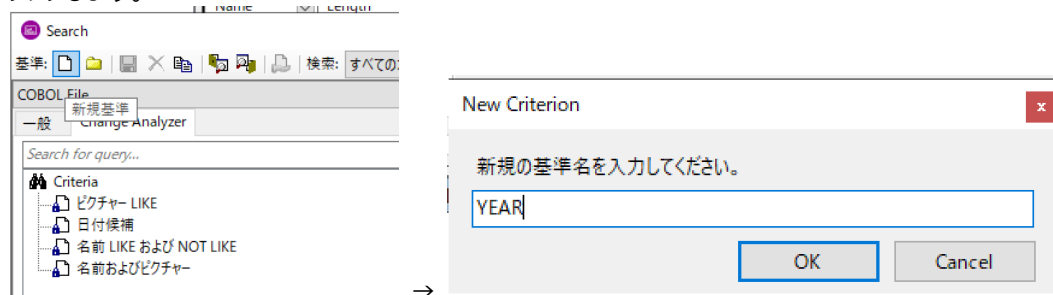


3.14.4 「Step1: Find Change Candidates」ボタンをクリックします。「Search」フォームが表示されます。

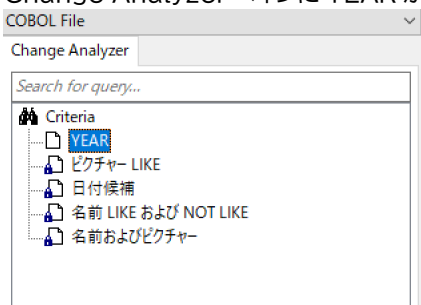




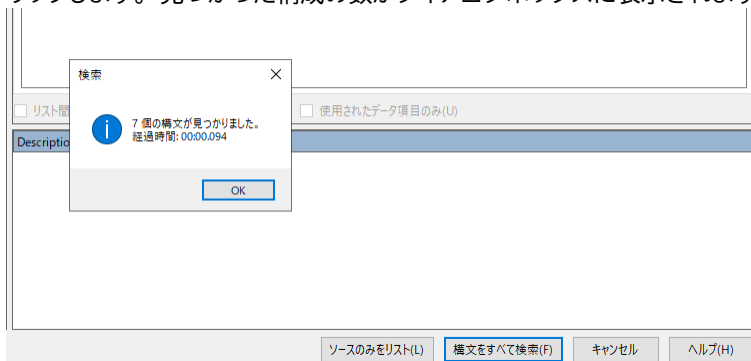
3.14.5 ツールバーの「新規基準」をクリックします。ダイアログボックスが開くので”YEAR”と入力し、[OK] ボタンをクリックします。



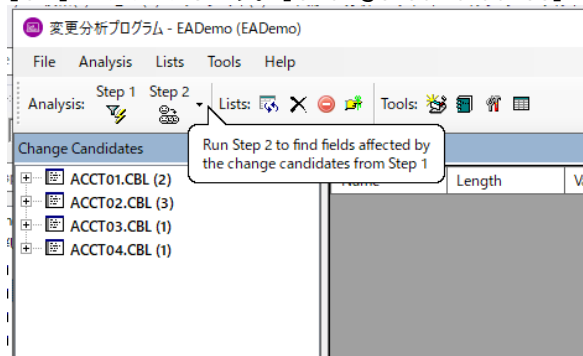
3.14.6 Change Analyzer ペインに YEAR が追加されます。



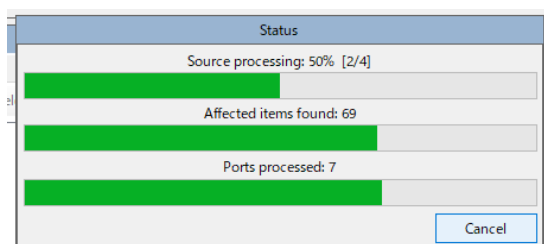
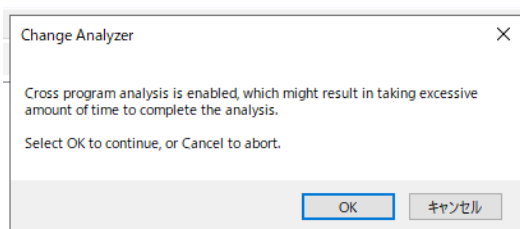
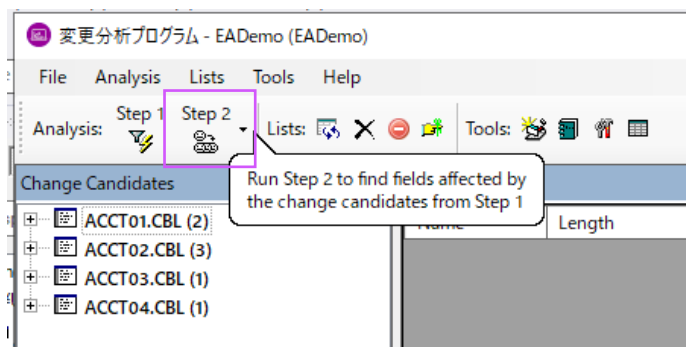
3.14.7 YEAR をクリックし、[Criterion] ペインにて「名前 LIKE」に”*DATA*”とタイプし、[構文をすべて検索] をクリックします。見つかった構成の数がダイアログボックスに表示されます。



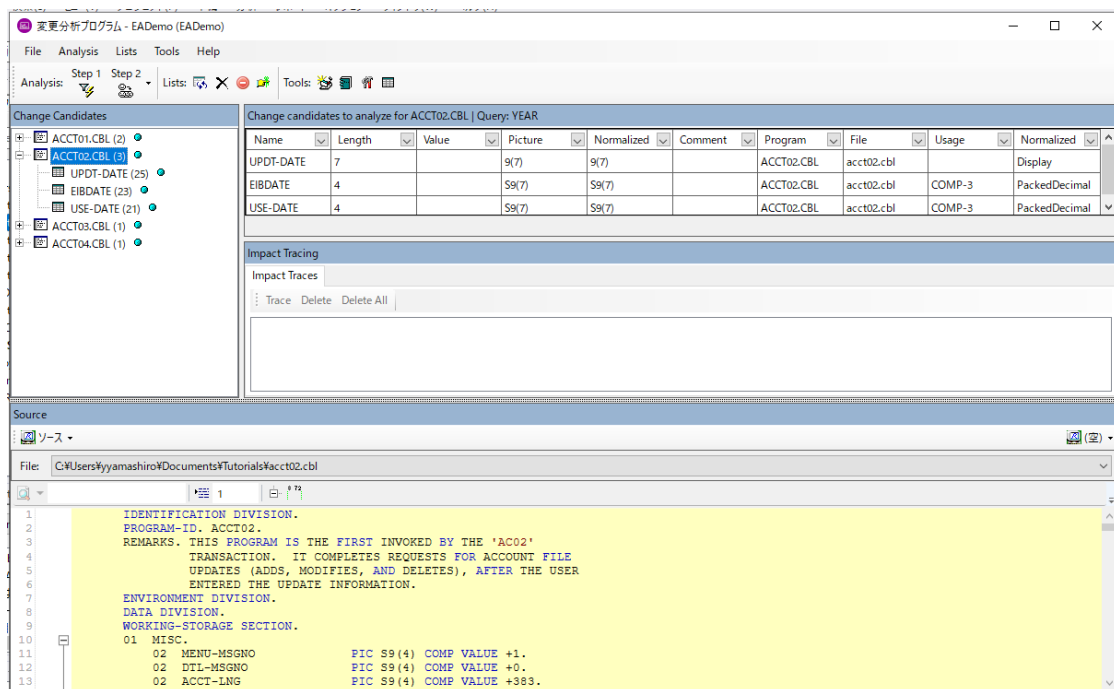
3.14.8 [OK] をクリックします。[Change Candidates] ペインに、一致するオブジェクトのリストが表示されます。



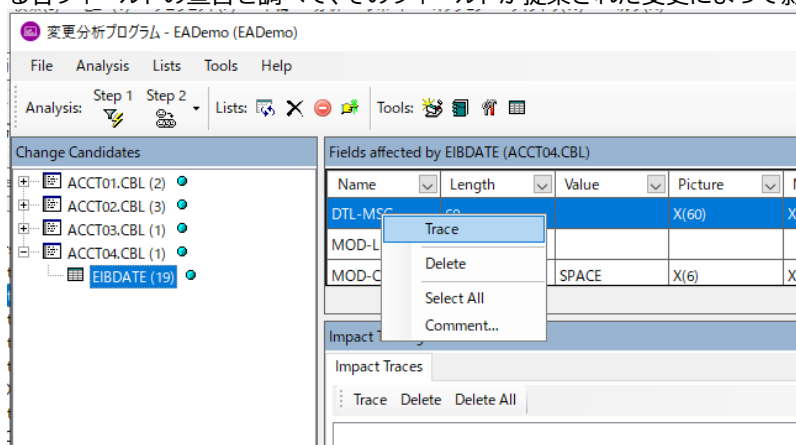
3.14.9 ツールバーの [Step2: Find Fields Affected by the Change Candidates] をクリックし、[Find Affected Fields for All Programs] を選択します。既存の分析結果がすべてクリアされることを通知するメッセージがポップアップ表示された場合は、[OK] をクリックします。[ステータス] ダイアログ ボックスが表示され、進行状況が表示されます。

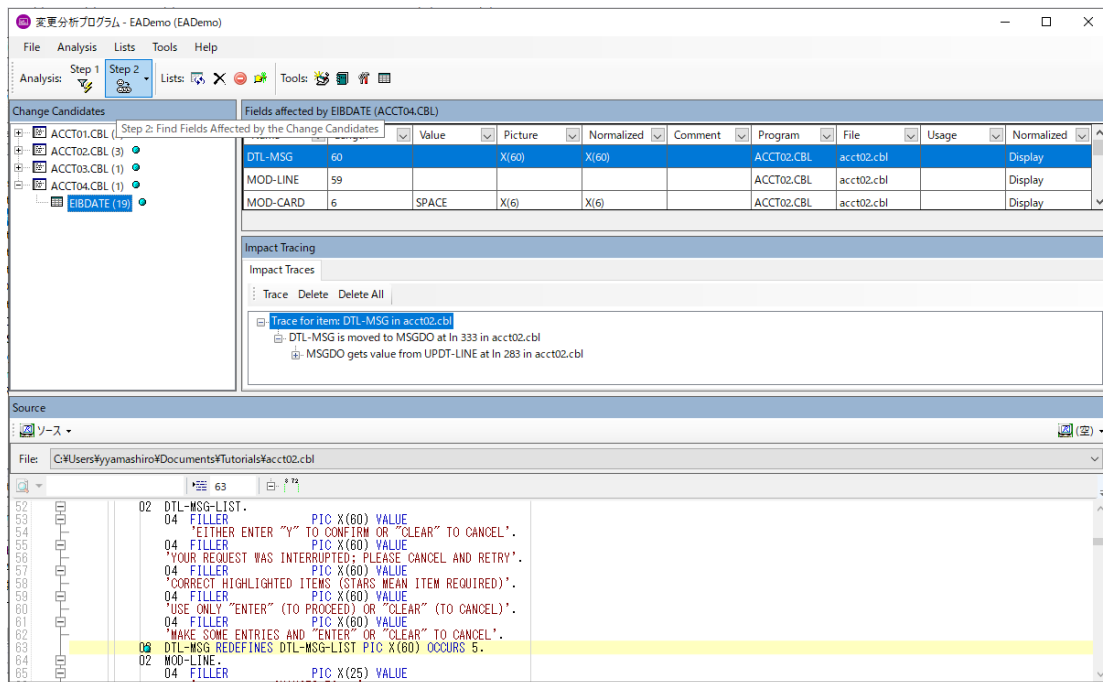


3.14.10 [変更候補] ペインに、変更候補とネストされた影響を受けるフィールドのリストが表示されます。候補されたプログラムをクリックすると、[Change Candidates to analyze for XXXXX] ペインに詳細情報が表示されます。[ソース] タブに関連するコードが表示されます。

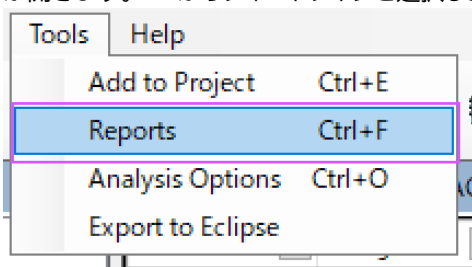


3.14.11 [Change Candidates to analyze for XXXXX] ウィンドウで、影響を受けるフィールドのいずれかを右クリックし、[Trace] をクリックします。影響を受けるフィールドに関する詳細情報が [Impact Tracing] ペインに表示され、関連するコード行が [ソース] ペインに表示されます。これを使用して、影響を受ける各フィールドの宣言を調べて、そのフィールドが提案された変更によって影響を受けるかどうかを判断できます。

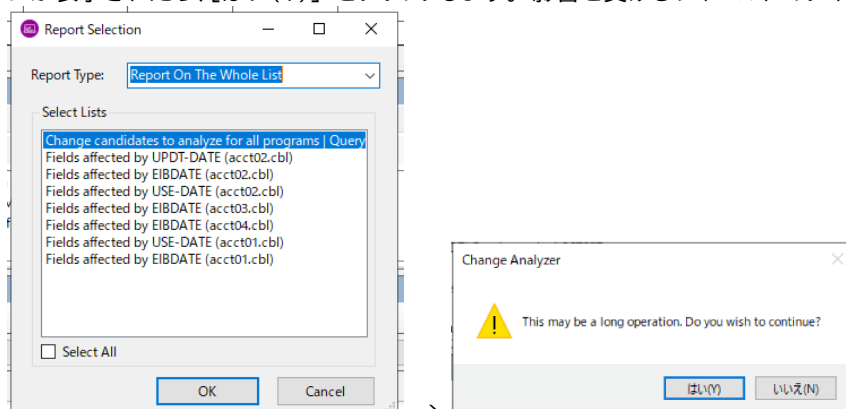




3.14.12 [Tools] > [Reports] をクリックします。これにより、[Report Selection] ダイアログボックスが開きます。ここからレポートタイプを選択します。



3.14.13 [Report Type:] のドロップダウンリストより、[Report On The Whole List] を選択します。これにより、リスト全体についてレポートが出力されます。[OK] をクリックします。続行するかどうかを尋ねるメッセージが表示されたら、[はい(Y)] をクリックします。影響を受けるフィールドのレポートが表示されます。



3.14.14 レポートは、印刷または保存ができます。

LCレポート: List: Change candidates to analyze for all programs | Query: YEAR

Dataname	Line	Column	Length	Value	Picture	Normalized Picture	Comment	Program	File	Use
UPDT-DATE	80	16	7		S9(7)	S9(7)		ACCT02.CBL	C:\Users\yyamashiro\Documents\Tutorials\acct02.cbl	
EIBDATE	86	8	4		S9(7)	S9(7)		ACCT02.CBL	C:\Users\yyamashiro\Documents\Tutorials\acct02.cbl	COI 3
USE-DATE	27	16	4		S9(7)	S9(7)		ACCT02.CBL	C:\Users\yyamashiro\Documents\Tutorials\acct02.cbl	COI 3
EIBDATE	12	8	4		S9(7)	S9(7)		ACCT03.CBL	C:\Users\yyamashiro\Documents\Tutorials\acct03.cbl	COI 3
EIBDATE	120	8	4		S9(7)	S9(7)		ACCT04.CBL	C:\Users\yyamashiro\Documents\Tutorials\acct04.cbl	COI 3
USE-DATE	25	16	4		S9(7)	S9(7)		ACCT01.CBL	C:\Users\yyamashiro\Documents\Tutorials\acct01.cbl	COI 3
EIBDATE	128	8	4		S9(7)	S9(7)		ACCT01.CBL	C:\Users\yyamashiro\Documents\Tutorials\acct01.cbl	COI 3

レポート生成日時: 2025/08/29 11:58:53 午前

ページ設定(A) 印刷(P) 保存(S) 閉じる(C)

3.15 最後に

ワークスペースを管理するために使用する RDBS は PostgreSQL、SQL Server を使用することができますが、Enterprise Analyzer では多数のテーブルを使用するため、既存テーブルとは分離して管理することをお勧めします。

Enterprise Analyzer のドキュメントは下記 URL をご参照ください。この時、ブラウザ右上の言語設定を「English」に変更してください。

https://docs.rocketsoftware.com/bundle?labelkey=enterprise_analyzer_11.0

4 免責事項

本チュートリアル of 例題ソースコードは機能説明を目的としたサンプルであり、無謬性を保証するものではありません。例題ソースコードは弊社に断りなくご利用いただけますが、本チュートリアルに関わるすべてを対象として、二次的著作物に引用する場合は著作権法に基づき適切な扱いを行ってください。

本チュートリアルで学習した技術の詳細については製品マニュアルをご参照ください。

WHAT'S NEXT

- Enterprise Analyzer クエリー作成ガイド